

め で る

vol. 4



2013.6

目次

Contents

- スポットライト 「ひびき渡る琵琶の音」 総合人間研究所 所長 早川 一光 … 2・3
- 特集 春の宿泊研修 in 信楽等甲賀・湖南方面 …… 4～11
- 「人」 きづきクリニック 院長 木築 野百合 …… 12～14
- 地域自慢 長浜市の南端 加田町の自然に恵まれて …… 15
- 看護学生向け情報 助産師の仕事について …… 16・17
- 病院紹介 彦根市立病院／大津赤十字病院 …… 18～21
- 実習情報 医学生・看護学生の皆さんへの県内病院の見学・実習・インターンシップ情報 … 22・23
- 調査 滋賀医科大学 医学科卒業生の卒後動向 …… 24
- 滋賀医科大学里親学生支援室プチ里親からのお便り 川村 啓子 …… 25
- 報告／会員の現状・入会のご案内／編集後記 …… 26～28

ひびき渡る琵琶の音

とき 2013年4月18日 10:30~12:00

ところ 滋賀医科大学臨床講義棟臨床講義室3



総合人間研究所 所長

早川 一 光

今年度、新しく入学してきた医学生と看護学生の聴き入る中で、
日本でも数少ない琵琶奏者 片山旭星^{きょうせい}師の心せまるような声がひびいた。

—— 祇園精舎の鐘の声

諸行無常の響きあり —— と……

また、肥後座頭琵琶の音色が色を添えた。

それは、**生きものの 命の果かなさと同時に 命の尊さ** を音で語りかけてきた。

わきあがる学生諸君の拍手の中で、立ち上った学生諸氏が滋賀医科大学卒業生 あざいリハビリテーションクリニック所長 松井善典先生の指揮で、琵琶湖周航の歌が流れ出た、

—— われは湖の子 さすらいの

旅にしあれば しみじみと ——

私は学生諸君の涙を見逃さなかった。遠く、古里を離れて、学びの道に入った人たちも、関西一円に育った若者も、

「そうだ、命の湖 琵琶湖が身近かにあったのだ」と気づく。



湖は単なる“水だまり・水がめ”ではない、千古の昔から、万物の命を産み育てて来た「大海」「命の母」なのだ。

命など無いと見すごしてきた石にも水にも川にも空気にも月にも太陽にも **命があるのだ** という事を 私達、人間がしみじみと知る事が 医と看の心だと思った。

人生は、又とない出会いの連続

私と演者 片山旭星さんとは実は一面識も無かった間柄であったが
私の滋賀医大の医学概論講義の最後に当って、何を学生諸君と大学に残していこうかと考えた時、

私の講演でなく自分の思いを、どんなに苦しくても又人に目立たなくても、**芸** に打ちこんで来られたお人に、語って頂こうと

人を介して、紹介していただき思い切ってその門を叩いた。

「医と看の道に踏み込んで来た若者に、是非、予算が何もありませんが……」と頼んだら
「よろしい！ **僕、行く**」

と、速断——

私は“あ！この心が医の心だ”と感じた。

私はこの「急患です」と言われて

“僕、ゆく”と応える心を医の道に踏み込んで来た若者たちに伝えようと思った。

〈つづく〉

※次回は、Natura sanat
Medicus curat—Hippocrates



早川一光

1924年(大正13年) 生まれ

ラジオパーソナリティ

医師

「総合人間研究所」 所長

公益社団法人「認知症の人と家族の会」 顧問

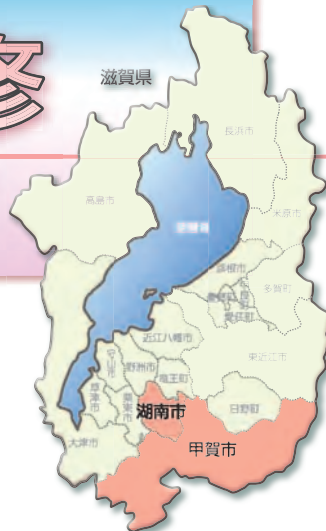
KBS京都ラジオで「早川一光のばんざい人間」 放送中

平成18年～ 滋賀医科大学非常勤講師



春の宿泊研修

in 信楽等甲賀・湖南方面



「信楽等甲賀・湖南方面の医療と歴史・文化を学ぶ」と題し、3月18日(月)～19日(火)の2日間、滋賀県で学ぶ医学生・看護学生や滋賀県出身の医学生・看護学生を対象に地域・医療理解の為の宿泊研修を実施しました。今回は、滋賀医科大学と自治医科大学の医学生合わせて8名を含む総勢15名での研修となりました。



1日目 旧甲南町・旧水口町の地域見学を行い、湖南市のリハビリテーション病院を訪問しました

甲賀流忍術屋敷（見学）

甲賀忍者や屋敷にある仕掛けなどについて話を聞きました。

興味深い展示品の数々



臨済宗妙心寺派 大池寺、蓬萊庭園（見学・拝観）

小堀遠州の作として伝えられる鑑賞式枯山水庭園を見学しました。

四季を通じて趣のある庭園



甲西リハビリ病院（説明・見学）

田中院長から「リハビリテーションの現状と地域が抱える問題」と題してご講演いただいた後、院内の施設を見学させていただきました。

医療保険制度と介護保険制度のはざまで、医師は患者さんのためにどうすべきかな？



水口センチュリーホテル（交流会・宿泊）

交流会第1部

講演／みなくち訪問看護ステーション

統括所長・訪問看護認定看護師 駒井 和子氏

テーマ「訪問看護について」

講演／甲賀市立信楽中央病院

院長 中島 恭二先生

テーマ「小病院は連携を力に地域医療を支えよう」

交流会第2部

研修先の先生方や滋賀医科大学里親学生支援事業の里親・プチ里親の方々もご参加いただき、それぞれのお立場からご意見をいただきました。学生や教職員からは、当日の研修の報告や意見を発表する等、貴重な交流の場となりました。



2日目 旧信楽町、旧水口町の病院・診療所の見学を行いました

甲賀市立信楽中央病院（説明・見学）

平岡事務長より信楽の地域の特性や病院の概要説明の後、滋賀県最南端にある出張診療所（多羅尾診療所）を見学させていただきました。



公立甲賀病院（説明・見学）

望月事務部長から病院の概要説明の後、2班に分かれて院内を見学。3年生は合同カンファレンスに参加させていただきました。その後、開院前の新病院を見学し、新病院長となられる清水先生を始め、病院の先生方を囲んで交流をさせていただきました。



引越し準備で
お忙しいところ
おじゃまします！

▲新公立甲賀病院全景

宿泊研修に参加して(学生の声)

注) 学年は H25.3 時点のものです。

滋賀医科大学 医学科3年生 沖 達也

宿泊研修には今回が初めての参加となります。その参加理由は、将来地元の地域医療に貢献したいと考えているため、地元甲賀市での医療とその地域連携について改めて学びたく思ったためです。実際その研修内容として、甲西リハビリ病院での慢性期治療を学んだ後、信楽中央病院での地域医療、また公立甲賀病院での急性期治療と慢性期への移行と一連の地域連携の形を学ぶことが出来、大変有意義な研修となりました。ある地域に焦点を置くことで、その地域全体の医療連携を見ることが出来る宿泊研修、今後とも機会があれば是非参加させて頂きたいと思います。

自治医科大学 医学科3年生 八坂 寛之

今回訪れた甲賀市・湖南市は滋賀県出身でありながらほとんど足を踏み入れたことのない土地でしたが、自然あり、歴史あり、そして文化・産業の栄えた非常に魅力的なところだと感じました。

今回は甲西リハビリ病院、信楽中央病院、甲賀病院を見学させていただき、甲賀市・湖南市地域においてそれぞれの病院がどのような役割を果たし、連携しているのかを知ることができました。

甲賀病院では中枢神経の手術を受けた患者さんの、退院に向けた話し合いに同席させていただき、急性期から回復期への移行にあたって、どんな制度が用意されていて、利用可能な医療・福祉のサービスにどのようなものがあるのか具体的に知ることができました。その際、甲西リハビリ病院で、回復期リハビリ病棟の概要や、医療保険と介護保険の関係、それらの制度が持つ時間的な制約について教えていただいていたことが大変役に立ちました。急性期→回復期→維持期へと途切れのない一貫した医療を提供するには、医療資源が地域に適切に配置され、それらがうまく連携をとれることが非常に重要であるということを学びました。

信楽中央病院では、医師の確保や経営上の困難など様々な問題を抱えながらも、地域のニーズに真摯に応え続けていることがわかり、自治医大生として自分が将来果たすべき使命を改めて認識させられました。

今回は訪問先や交流会で沢山の先生方のお話を聞くことができ、その熱い思いに触れることができました。地域医療を志す者として多くの刺激をもらえる、大変有意義な研修でした。ありがとうございました。

甲西リハビリ病院
院内見学の様子▶



滋賀医科大学 医学科2年生 正木 暁

今回初めてこの研修に参加させていただいたのですが、自分の中で、思っていた以上の満足感を得られたと思います。甲賀の観光はさることながら、一番印象に残ったのは公立甲賀病院の見学です。

地域を支えている病院に行くのは今回2度目なのですが、病院で抱えている大きな問題はやはり同じであり、医者不足、経営の赤字、高齢患者の増加、こういったことについて真剣に考えることなど学生の間はあまりないので非常にいい機会であったと思います。

滋賀医科大学 医学科2年生 高塚 淑子

宿泊研修の参加は今回で3回目になります。私は大阪出身なので、宿泊研修はとても有難い企画だと思っています。普段はなかなか行けない滋賀のいろいろな地域を回っていただけなので、卒業までに滋賀のすべての地域を回れればと思って参加しています。今回は1日目だけの参加しかできませんでしたが、甲賀流忍術屋敷、大池寺、甲西リハビリ病院、講演会、交流会に参加することができました。また自治医大の方が毎回参加され、学生のうちから交流できていることも大切だと思います。

滋賀医科大学 医学科1年生 樋上 明音

今回初めてこの宿泊研修に参加させていただきました。京都から通学している私は、滋賀医大に入学して一年経ったにも関わらず、滋賀県のことについて何も知らないと思い、この研修に参加しました。どこにいても私の知らないことを知ることが出来て本当に貴重な体験だったと思います。実際に医療の現場で働く先生方の話を聞けたことも本当に良かったです。地域医療の現場で生と死と真正面から向き合う先生方の姿に将来なりたい医師像というものを見たように思いました。ありがとうございました。



▲公立甲賀病院にて

宿泊研修に参加して(学生の声)

滋賀医科大学 医学科2年生 門間 美里

私は今回で2回目の参加になります。前回と比較して、より地域医療の魅力を感じることが出来る宿泊研修であったと思いました。

1日目に見学させて頂いた甲西リハビリ病院の田中院長のお話を通して、現在の医療保険制度が抱えるリハビリ難民に対する問題点など、大学の座学だけでは学ぶことが出来なかった事実を理解することができました。

甲賀では病院の垣根を超えてクリティカルパスが組み立てられており、甲西リハビリ病院が最終的に患者さんを受け入れ、患者さんが在宅で社会復帰できるまでを目標として、看護師の方々、コメディカルの先生方が一丸となって働く姿に感動しました。

また訪問看護ステーションの駒井先生のなぜ地域医療に携わるようになったかのお話に心を打たれました。

先生は以前は救急医療に従事しており、患者さんが病院で亡くなっていく姿に疑問を感じ、人の死をもっときちんと受け止めたいということで、現在看取りに携わってられます。病院で死ぬ、家で死ぬ、どちらを是とするかは人それぞれですが、地域医療に従事する先生方は様々な深い思いを抱いて働いていらっしゃるということが、交流会で実際にお話をすることで知ることが出来ました。

2日目に訪れた公立甲賀病院の先生方はまだ学生の私達を温かく迎えて下さり、また病院見学の際に担当患者さんの病状の説明をして下さいました。先生方が日頃患者さんとのように接していらっしゃるかが間近で見ることができました。先生は「患者さんは医師が顔を見ただけで喜んでくれるし元気になる」「それはこちらも嬉しいけど、元気になったと思って自宅に帰すと、実はまだ患者さんには痛みがあったりするから注意しなければいけない」と話して下さいました。先生方は患者さんと信頼関係を築くだけではなく、患者さんの変化を見落とさず常に注視してらっしゃるのだと思いました。

2回目の宿泊研修では地域で働くこととはどういうことか、より深く感じることができました。大学での勉学も大切ですが、私は今後も、「医師とは病気を診るのではなく人を診るもの」という言葉を心に留めて医学生として精進していきたいと思います。

滋賀医科大学 医学科2年生 木村 優香

3回目の参加です。

甲賀信楽方面へはなかなか個人的には行くことがなく、とても楽しく研修できました。特に貴重な経験だったのは、オープン前の公立甲賀病院を見学できたことです。新しい病院の、スタッフの意見を取り入れた工夫や最新の機器について、詳しく教えていただくこともできました。「気持ちが荒まないように」と、手術室に窓が作られていたのは特に驚きでした。組み立てる前のバラバラのMRIなど、滅多に見られないものもたくさん見させていただき、得をした気分でした。

甲西リハビリ病院見学、忍術屋敷、信楽のたぬき村など、盛りだくさんの内容で二日間、とても充実していました。訪問先の方々や里親学生支援室の先生方が、初歩的な質問にも優しく丁寧に答えて下さったおかげで、多くのことを吸収できました。ありがとうございました。

滋賀医科大学 医学科3年生 西野 裕香

宿泊研修は訪れる場所によって、毎回 異なった体験が出来ます。そしてそのどれもが、其々の地域を支える医療の現状を私に教えてくれます。

今回で4度目の参加になりますが、3年生の後期から臨床の勉強が始まったこともあり、下級生の時よりも多くのものを吸収しようという気持ちで臨みました。

公立甲賀病院で、患者さんやご家族を交えた治療計画のミーティングを見学させて頂いたことも貴重な経験となりました。様々な医療関係者の方が、それぞれの視点から患者さんにとってのベストな方法は何かを、制度上の制約なども考慮にいれつつ話し合われていました。また、医療側の意見だけでなく、患者さんやご家族のご希望も最大限取り入れるように配慮しておられたのも印象的でした。

生の臨床の現場で「チーム医療」というものを少し体験出来たのではないかと思います。



大池寺にて▶

訪問先の皆様からのメッセージ

研修を受け入れて・ 交流会に出席して

公立甲賀病院
院長 清水 和也



皆さんが当地域に研修に来られた3月18日～19日は、公立甲賀病院の4月1日新病院開院向けの移転作業たけなわの頃でした。旧病院では医療器材などが一部運び出されていて歯抜け状態でありましたし、新病院では十分に整備が進んでいないところでした。その中で新旧病院を同時に回っていただき、旧病院の診療機能が限界に達していること、また大変な移転作業の中で、新しい病院へ向けての意気込みや躍動感も感じられたのではないかと思います。その公立甲賀病院も最後に一番気を使う患者さん移送を無事に終え、4月1日の開院に漕ぎ着けることができました。4月2日より外来診療を再開し、ほぼ順調に診療を続けていることをお伝えしておきます。

3月18日の交流会では、信楽中央病院長である中島先生のご講演をお聞きすることができました。先生のお人柄が素晴らしいことありますが、地域医療の大切さと困難さを教えていただくとともに、そこに医師の献身的な姿勢が不可欠であることも学生の皆さんに伝わったことと思います。また、3月19日には新旧の公立甲賀病院を見学していただきました。新病院では私がまだ座ったことのない院長席に、未来の院長となるべき学生さんがお座りになったと聞きました。その上、地元出身の学生さんであることも知り、将来に明るい兆しを発見したような気分になりました。滋賀医大出身者は滋賀県の医療をまず担っていただきたいと

私は思います。当院で皆さんと再会できることを心待ちにしています。

病院見学を 受け入れて

公立甲賀病院 脳神経外科
渡辺 一良



この春、春の宿泊研修として当甲賀地域に滋賀医大および自治医大の学生計8名の病院見学を受け入れました。当院は4月1日の新病院への移転を控え、検査機器を移設している状況下でしたので、脳・循環器領域等の救急対応をやや絞っているところでした。

そこで、見学より参加型の実習をめざし、実際の治療カンファレンスに加わる……患者さんとその家族、医師、看護師、理学・作業療法士、ケースワーカーなどが一堂に会する治療方針決定カンファレンスに同席して、話し合いを間近で見学してもらうことにしたわけです。ちょうど前日に見学した回復期リハビリ病院に転院する患者さんだったため理解も一層深まった、との声も聞かれました。

その後は新病院へ全員で移動し、機器搬入のための養生シートの敷かれた院内を見学、真新しい院長室の大きな椅子に腰掛けて記念撮影を行うなど将来の自己イメージを描いてもらいました。

参加した学生はみな熱意に溢れており、今回のような機会を通じて、地元滋賀県の医療を担う新たな力が一人でも多く育ってくれることを願う次第です。



訪問先の皆様からのメッセージ

交流会に出席して

公立甲賀病院 放射線科
山崎 道夫



ノンアルコールの会に出席して見知らぬ人と話す形式は、いつも酒席で人との交流を深めてきた私にとっては難題でした。しかし滋賀医大でお世話になった懐かしい先生方や里親の方々との再会や、初々しい学生さん達のお話は、素面でも充分楽しいひとときでした。

びわ湖でヨット三昧の学生生活を送り、自然に滋賀県の魅力に触れていた私にとっては、大学医局に入局した時点で、滋賀県を仕事のホームグラウンドにすることは、当然と思っていました。しかし従来の医局制度が崩壊しつつある現状では、地域で医師を育てて地域医療を守る事は行政を含め重要な考え方だと思います。今回当院では、移転前のばたばた状態での新旧両病院の見学ということになりましたが、地域中核病院に勤務する一医師として、学生さんあるいは研修医の方々の研鑽にふさわしい場所そして内容を整備していくことが、自分の責務であると改めて感じています。

新病院は順調に開院しました。再度（出来れば酒席つきで）見学お待ちしております。

▶新病院内の見学の様子



桜咲く甲賀の里へようこそ

公立甲賀病院
副看護部長 鈴木 順子



甲賀忍者の里、そして桜の便りが聞かれる季節に、甲賀地域の医療と歴史・文化を学ぶ研修会が開催され、2010年以来2回目の交流会参加をさせていただきました。

交流会では信楽中央病院の先生による講演会があり、地域の人々の命を守る大切な病院のあり方、そしてそこで働く医師・看護師・関係者の苦労や思いなど貴重な話を聴くことができました。日ごろ同じ甲賀地域にしながら他施設の現状を新鮮な気持ちで医学生の方々と一緒に聞き意見交換ができたことは私にとって地域医療について考える有意義な時間となりました。

老朽化した旧甲賀病院75年の歴史を跡に新病院に移

転する『甲賀の歴史的イベント』のこの時期に皆様をお迎えでき、患者さんがまだいない病院を見学していただき案内役をさせていただきました。

現在、日本のあちこちで言われている僻地医療をささえる医師不足・看護師不足が甲賀の地でも深刻化しています。

地域医療を理解しささえてあげようと思う、医師・看護師の方々が甲賀の里、滋賀県の各地域で活躍してくださることを期待しております。

最後に、地域里親学生支援事業に取り組んでおられる皆様のご活躍を期待しております。



▲公立甲賀新病院の前で

■ 訪問先の皆様からのメッセージ

交流会に参加して

甲賀市立信楽中央病院
院長 中島 恭二



先日は春の宿泊研修の交流会で発表の機会を与えていただきありがとうございました。2010年3月に信楽の多羅尾で宿泊研修があった時、初めてこの事業に関わらせていただきました。若い医学生、看護学生さんと楽しく話したのを記憶しています。今回は学生さん向けに当院の紹介などを準備したのですが、公立甲賀病院の偉い先生方もおられて少し緊張しました。

話の中で高齢化の進む信楽の現状、地域連携の重要性、総合診療の重要性などをお話しました。患者さんを人として社会背景から理解することは地域医療の重要な点だと思います。年齢や社会背景を考えて個々の患者さんにどのような医療が最も適しているかを判断できる医療者を目指してください。私も日々勉強中です。できればその地域にしばらく住んでみると更に理解が深まります。日頃から医学以外のことにも関心を持ち、人間を磨く必要もあるでしょう。最後のスライド覚えておられるでしょうか？「頭は理科系、体は体育会系、ハートは文科系」ですよ。若い皆さんはこれから様々な方面で活躍されることと思います。どの分野に進むにしても人を相手にする大切な仕事であることを忘れないでください。

二日目には当院を見学していただきましたがいかがだったでしょうか。狭い会議室で失礼しました。外来があり自分で病院を案内できなかったのが残念です。小さな病院ですが、病院診療だけでなく、訪問診療、出張診療、保健活動など地域医療の原点を知っていただくには絶好の場だと思います。これまで高校生

から医学生、研修医まで様々な人たちの研修をお受けしています。地域医療に興味のある方はいつでもお越しください。



地域医療が危ないといわれて久しいです。高齢化の進む地域で医療を支えて行くのは若い皆さんです。地域里親学生支援事業がますます発展され、一人でも多くの同志が育つことを願っております。最後に貴重な機会を与えていただいた関係者の皆様に感謝いたします。

研修を受け入れて

甲賀市立信楽中央病院
事務長 平岡 利康



3月18・19日の両日に実施されました宿泊研修二日目に滋賀県最南端の公立病院である当院と多羅尾出張診療所を見学いただきました。時間に余裕が無く、簡素な説明で私たち地域医療従事者の思いが十分にお伝えできなかったのではないのでしょうか。そのような中で参加されました学生さんの熱心な姿を垣間見ることができました。

都市部の大病院とは異なり、山村地域での医師や看護師をはじめとする医療スタッフの不足は深刻な状況にあり、どのように地域医療を守ればよいのか苦悩の日々が続いています。地域医療に従事いただくことは大変なことも多々ありますが、地域住民にとっては身近な存在として期待されています。今回参加されました学生のみなさんが地域医療に関心を持ち、将来一人でも多くの方が地域医療の現場でご活躍いただくことを期待しております。

時間があれば信楽の魅力も肌で感じていただき、信楽特有の文化に触れていただきたかったのですが残念です。秋には第2回信楽まちなか芸術祭（トリエンナーレ）を開催しますので是非とも時間に余裕を持って再度信楽へお越しください。



▲診療所見学の様子

交流会に参加の皆様からのメッセージ

交流会に出席して

NPOみなくち訪問看護ステーション
統括所長・訪問看護認定看護師
駒井 和子



宿泊研修の際には、訪問看護の役割について、訪問看護の現状と課題についてお話させていただきました。これから、医師として活躍される医学生の方へ、訪問看護の事を少しでも知っていただける機会になったのではないかと思います。

その後の交流会では、医学生の方が現在取り組まれている解剖学についての話や、社会人として長く務めた後、医師をめざし医学部に入学された方の話など、普段あまり聞く機会のない内容で、大変興味深く聞かせていただきました。

滋賀医療人育成協力機構の活動の一つの宿泊研修・交流会でしたが、私にとっても、出席されていたこの地域の関係職種の方々の事業に対する考え、甲賀市内の医師の方々の医療や在宅看取りへの熱い思いなどを聞かせていただける貴重な時間となりました。これは、今後の連携や訪問看護活動へいかせることと思います。

今回参加された医学生の方々の今後の活躍を期待しております。

年度末の御多用な時期に春の宿泊研修の学生を受け入れていただき、貴重なお時間を割いていただきました各病院に改めてお礼申し上げます。

お陰様で、参加学生に貴重な体験をさせていただきました。

甲西リハビリ病院の田中先生からは、介護保険制度と医療保険制度の狭間で、患者さんにより良い医療を提供するため日夜励んでおられるお姿を、甲賀市立信楽中央病院の中島先生はじめ平岡事務長からは、信楽の地を愛し、その地に根付く医療を実践されているお姿を見せていただきました。

また、甲賀病院の先生方からは、新病院での地域医療に携わる意気込みを見せていただきました。あと12日後に開院する新病院は本当に広く、医療物品も全く揃っていない様子で、この調子で開院日までに物品の移動が完了できるのかなと、ちょっと心配に思っておりましたが、清水先生からご報告いただきましたとおり、4月2日から順調に診療をされておられるとのこと、新病院の開院本当におめでとうございます。

今回も多くの方々のご協力により、学生達が地域の医療や今後の進路を考えるうえで、大変有意義な研修となりました。



▲交流会に参加の皆様と

きづきクリニック

院長 **木築 野百合**
(滋賀医科大学5期生)



〈入局先を外科に選んだ理由〉

医師になりたいと想いだしたのは小学校に上がる前。そのころどんな医者を目指していたかは覚えていませんが、お医者さんの三種の神器は白衣、聴診器、メス、だと思っていました。つまり、小さいころからメッサーになりたかったのは事実です。

最近とんと教会へは行けていませんが、クリスチャンです。神様のお役に立つ仕事がしたいと思っていて、そのためにお医者さん、しかも何でもできるお医者さん、目の前に倒れている人がいた時に、助けられる医師になりたい、そのために、一番広範囲を診られて、技術を得られる、消化器、一般外科、すなわち当時の第一外科を入局先に決めました。

私は5期生なので、先輩は4年間分しかいません。女性の先輩は30人あまり。小児科や眼科、耳鼻科へ入局した先輩が多かった時代です。実は、実際入局を決める前には、自分が外科でやっていけるかを悩んだあげく、誰かに相談することにしました。



▲研修医時代 後輩たちが大会主幹したとき、岐阜の友人（OG）と

〈今思えばわたしにも里親がいました〉

もちろん、私の学生時代には里親制度はありません。でも、親元を離れて、下宿し大学に通っている医学生としては、里親に当たる、大人のひとの存在はとても大切です。私には3人里父がいました。

おひとりは草津で開業しておられた産婦人科のドクター、おひとりは大学の生理学の教授、そして、もうおひとり、小児科の教授をされていた島田先生。

産婦人科の開業医さんは、娘さんを家庭教師したご縁で知り合い、後に私自身が開業し草津栗東医師会に所属した時は、お父さん先生として、何かにつけ気にかけてもらいました。

生理学の教授、横田先生はバドミントン部の顧問の先生で、先生ご自身はバドミントンのルールすらご存知ないのに、バドミントン部員をととても可愛がってくださいました。「きっとお前が合格ラインになるのだから、生理学の勉強はするな。」と同級生の男子から言われるくらい、先生のバドミントン部愛は有名でした。研修医期間が終わって、さて、研究グループをどうしようかと悩んでいたとき、先生が生理学で、「痛み」の研究をするように言ってくださったので、毎週研修日に生理学教



▲学生時代 近畿医歯薬優勝のとき

室に通って、先生から色々教わりました。学生の頃から、学術的にはとても優秀とは言い難い私の成績でしたので、(バドミントンはそこそこ優秀な成績を残したつもりですが、ここで自慢話を盛り込むと話が長くなりすぎるので、割愛します) 論文作成まで、手取り足取りご教授いただきました。

島田教授との関わりも、先生のお嬢さんの家庭教師をしたことがひとつのきっかけでした。実は娘さんは、私の通っていた教会に通っておられ、もともと知り合いです。その上、なんとなく小児科医になるのがいいのかなと漠然と思っていた大学一年のころの私は、島田先生と関わりができることが嬉しかったのです。ところが、ポリクリが終わり手術見学や臨床講義を経験し終わるころには、自分の中にメッサーになりたい気持ちがあること、小児科ではそれができないことが、認識できるようになりました。そこで、思い切って、島田教授にお時間をいただき、相談にのっていただくことにしたのでした。

女性で、外科に進むことの大変さ、私自身が、外科に進むことが可能かを、先輩医師であり、いろいろな医学生を見てこられたお立場で、助言をいただければ、そして内心「悩んでいるのなら小児科に入局すればいいよ。」と先生のお誘いをいただけることを期待して、教授室に伺いました。「君なら外科医としてやっていけるよ。」先生は外科への入局に躊躇していた私の背中を押してくださったのでした。小児科入局をすすめて、純粋に相談に応えてくださったので、私は外科に入局を決めました。



▲子どもが小さいときはデイケアにちっちゃい先生として出現

〈子育ての苦労〉

第一外科に入局し、研修医を大学で2年、その後市中病院の外科勤務をして、術前術後管理、手術、外来、ほとんどの時間を病院で過ごすような生活で、一生ひとりものでもいいかと、この仕事は一生をかけてするに値する仕事だと思っていました。縁あって長男を出産することになった36歳まで、いつ死んでも人生に後悔はないと本気でそう思っていました。子どもを授かることでそれまでにない貴重な経験と、多くの喜びと、何より、死ぬわけにはいかないという思いが自分のなかに生まれてきました。思い返してみても苦労はきつとあったと思います。でも、18,19の娘だって子どもを産んでりっぱに育ててる人はたくさんいる。最高学

府を卒業し、10年も医者をやってきた私に子どもひとりが育てられないわけではないんだという思いで、ここまできたので、そんなに苦労でもなかったように今は思っています。あえて、一番大変だったことを掲げると、下の子が1年生、上の子が6年生（二人は違う小学校）のとき、地域の子どもの会の会長を仰せつかっていたそのころ。ドラマ24のジャックバウワールの分刻みの行動より自分のほうが大変だと思ったことがありました。外来（特にインフルエンザがはやる季節）、特養の配置医の仕事での老人ホーム訪問、50人分の処方箋作成、子ども会の資料作り、長男の弁当作り、娘の登校の旗当番、栗東の学校健診の出動、局麻手術、年賀状書き、回覧板回し、etc. 睡眠しなくても死なないものだなと思ってやっていました。でも通り過ぎてみれば、それも楽しい思い出かもしれません。

今は、前職場を退職して、クリニックの事務長になってくれている夫が子どもの弁当作りまでやってくれるので、楽をさせてもらっています。（その分医師会の理事や夫の前職の関わりで警察から依頼された仕事など増えている仕事もあります）



▲娘がディズニーランドでシンデレラになったとき、このときの写真は外来にかざってある

〈経験しておいたら良いこと〉

クラブは何かに所属して、横のつながり、先輩後輩との縦の絆を作ってください。対外試合に出場したりすると、他学の友人もできます。これは良い財産になります。



▲お花のおけいこは息子、娘、娘の友人も
@待合室

学外活動（私にとっては教会活動や家庭教師がそれにあたります）も経験しておきましょう。医学部だけの狭い社会だけでなく、世間を知っておくためにはいろいろ経験するのがいいと思います。

一生できる趣味を探し出しておきましょう。（見つからなくても、探すことを始めることが大事）ちなみに私は今お花を習っています。

恋はしましょう。子どもは産みましょう。子育てをしましょう。（社会のしくみや、制度を理解するよい機会になります）何より生きることの意義を知ります。



▲クリニックの外観

〈後輩学生さんたちへ〉

私が島田先生の教授室に伺ったとき、先生はご自身の若き日の経験をお聞かせくださったのですが、先生は初めから小児科医になろうと思っておられたわけではなかったそうです。教授までなられた方はぶれずに最初から小児科医を目指してらしたにちがいないと、私は思っていたので、少し意外に感じました。学生時代に目指したものを修正して、修正して、人生を歩いていていいんだということ。後で修正してもいいのなら、まずは外科医になろう

と思えたのです。だから皆さんには、若い時には、思い切っているんな可能性をイメージして、進路を選択する勇気を持って欲しいと思います。

今私は診療所を開業し、外科だけでなく色々関わっています。自分の子育ての経験から、託児所を併設し、病後児保育事業を展開しています。学生時代には思いもしなかった展開です。人生、先が決まっているのが、幸せというわけではないと思います。波乱万丈、大いに結構。人生を楽しみましょう。私もまだまだこれからの変化を楽しみに、がんばりますよ。



▲外来患者さんと（実はもと草津警察署長さん）



▲お花は私が生けたもの
@トイレの前室

～長浜市の南端 加田町の自然に恵まれて～

合併した後の長浜市の面積は539km²で、びわ湖とは少し小さい位になりました。県の北部のせいか長浜というと雪の多い所と印象づけられているようですが、私が住む加田町は、市の南部で、今年は雪も3センチ位積もった程で、米原との境になり、秋には黄金の波打つ田圃の中にある地域です。近くに小高い丘のような神田山があり、その南に溜池があります。これは豊島池といって、昔、水田の早

ばつ 魘に困っているのを見かねた代官の豊島作右衛門が村人達と掘上げた池で、現代では想像もつかぬ大事業だったと思います。今は蓮池になっていますが、周りに桜の木やあじさい等が植えられた山も整備されて風致地区として市民の憩いの場となっています。山裾の北の斜面は広く子ども達の遊び場となり、冬は親子連れで、スキーや橇遊びで賑わっています。その山裾には神田小

学校という旧長浜市で一番小さい小学校がありましたが、現在は統合され長浜南小学校となり、村落の北に建っています。

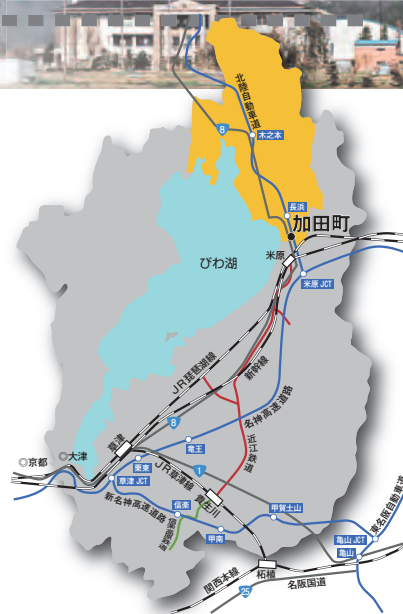
交通としては、近くに国道8号線もあり、電車では北陸線長浜駅の手前、田村駅があり、新快速も止まり、長浜で二つしかない大学、滋賀文教短期大学、長浜バイオ大学もあるので若者の乗降の多い駅です。又、県に一つの長浜ドームがあり、ドームの東の方と見当つければ、大体の位置が解ります。町のすぐ東に北陸自動車道も通っており、神田パーキングもあって展望台から西にびわ湖、東に伊吹山と見晴らしの良い所です。

医療関係では、市立長浜病院、長浜赤十字病院につきましては前号でくわしく書かれていましたが市立長浜病院は、ここから車で5分位の所にあり馴じみの個人病院も近くにたくさんあって親切に対応して下さい、心配のない地域です。

神田と言えば長浜老人ホーム(現在増築中)や立派な老人養護施設が三棟もあり、私たち町民としては、盆踊りや交流会、合同運動会等にも参加し交流を深めています。この静かな自然環境を生かした施設は、老人達の憩いの場としてふさわしい地域だと思えます。

長浜のメインの盆梅展、あせび展が終わると、次は豊公園の桜が満開です。4月14日からは子ども歌舞伎で有名な長浜曳山祭が始まり、しゃぎりの音が流れてきます。

歴史の町 長浜、観音の町 高月等、湖北も良い所がいっぱいあります。今年はびわ湖を含め竹生島等の映画「偉大なる、しゅららぼん」も作られるそうです。滋賀に誇りをもち、ふるさとを愛し、人を愛し、がんばって生きたいものです。



春の神田山



体力づくりでウォーキングの会



長浜病院



メディケアセンター



清浄苑



アンタレス

文：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構
賛助会員 長浜市加田町 在住
松本 君代



助産師の仕事について

助産師は、助産師国家試験に合格し、厚生労働大臣により国家資格を得ることができます。保健師助産師看護師法で、助産師は、正常な「助産又は妊婦、じょうく婦若しくは新生児の保健指導」を行うことを業としています。



★ 助産師の多様性

助産師は、「女性と共にある」専門職として、女性とその子どもおよび家族の健康や福祉に寄与することを使命としています。特に周産期領域での活躍が期待されています。

妊娠期では、妊娠の診断や、健康管理を行います。時には出生前診断などで異常を指摘された方に、多様な職種とともに精神的支援などを行います。

分娩期では、分娩の進行を診断し、その時々に応じた助産技法を活用して、安全かつ産婦とその家族が納得のいく出産体験ができるよう支援します。

産褥期では、母乳哺育とともに褥婦の全身復古に関する健康管理を行います。また、新生児の胎外環境の適応状態を確認し、養育者が新生児の成長に応じて適切なケアが行えるよう支援します。生後1年まで適切な発達水準が確保できるよう支援します。支援には地域の行政機関との連携を含みます。

また、女性へのケアにおいては、思春期女性への支援、家族計画に関する支援、不妊の悩みを持つ女性とその家族への支援、中高年女性への支援、女性性感染症に関する予防と支援、月経障害を持つ女性への支援などを行っています。

★ 病院で働く私たちの仕事の実際

助産師の仕事といえば、助産、分娩と考える方が多いと思います。

実際に正常な妊娠経過をたどっておられる方の分娩は助産師だけで

取り扱う事ができます。異常があった時にもしくはそれを未然に防ぐために、医師といつでも協力できる体制で行います。また、分娩までの妊娠経過を検診や、正常な妊娠経過をたどるための保健指導に力を入れています。

助産師による助産師外来での妊婦検診は、ゆっくりお話を伺う時間を設けており、個別に応じた保健指導を行います。そして分娩期はその助産師と一緒に過ごすため「安心感がある」と言ってもらえます。最近では、病院

の中に助産院を置く院内助産所が多くなってきています。



女性の分娩への満足感を高めるためには、分娩期の関わりももちろん大切ですが、妊娠期をどのように過ごしていただくか、どんな分娩がしたいかを考えて準備して頂くことが重要になってきます。多くの女性とその家族は、核家族化が進んだことにより、妊娠期の過ごし方や分娩、育児などについてなじみがないことが多くなってきています。妊娠期は両親学級などの集団指導の場を設け、妊婦さんとその家族を対象に、これからおこる体の変化や分娩期の過ごし方、育児の準備などをお話させていただきます。また、インターネットやTV、雑誌など多くのメディアから情報を入手しやすい時代で

あることもあり、妊婦さんは、自分で勉強されることも多いです。「TVで体重を増やしてはいけないって言うけど、インターネットには違うことが書いてあったが、どうしたら良いのか？」など情報の選択が難しくなっています。両親学級などの助産師が直接かかわる場では、妊婦さんに正しい知識の伝達と日頃の疑問を解消することも目的にしています。

分娩の始まりは陣痛の開始、もしくは破水からで、分娩開始兆候があれば入院して頂きます。助産師は女性の本来もっている産む力を最大限に引き出せるように、産婦さんや家族、スタッフ一丸となって関わります。いつも同じような経過をたどる分娩はなく、人に個性があるようにすべての分娩は違っていきます。私たちは産婦さんと長い時間を過ごし、一緒に陣痛を乗り切って赤ちゃんに出会えた時の感動と達成感は言葉では伝えきれません。

赤ちゃんが生まれると産婦さんから褥婦さんになります。多くの褥婦さんは妊娠した時から赤ちゃんに出会えることをとても楽しみにされ、物だけでなく心の準備も除々にされています。しかし、実際に赤ちゃんに出会うと喜びとともに、生まれた命に対する責任を深く感じられ、不安も大きくなります。退院までの期間で育児に少しでも自信を持って生活の場に帰っていただけるよう、その人にあった授乳、育児の方法を指導します。

退院後はどのように育児していくのか、支援体制はあるかなど、退院後の生活についてお話しします。褥婦さんと赤ちゃんにとっては病院ですごした一週間の経験で退院後は過ごして行って頂かなければなりません。

退院してからも育児がつけられるように褥婦さんを取りまく環境について情報を集め、指導したり、サポートする団体、助産師外来の紹介をしたりします。時には、地域の保健師、助産師に協力を依頼し継続して援助できるようにします。褥婦さんが一人で抱え込んで一人で何とかしないと悩んでしまわないように、できる限りのことをすることが、母子が健やかに生活していくために大切だと思っています。

学生さんへ

- 学生時代に担当した患者さんが今の私の看護感に大きく影響しています。ひとつひとつの出会いを大切にしたいと思っています。
- 苦労すればするほど、後に達成感と良い思い出になります。仲間を大切にしてください。



LDRでお産をしてみませんか？

LDRって…？
 L : Labor…陣痛
 D : Delivery…分娩
 R : Recovery…回復
それぞれの漢字をとった略語です。

- ★陣痛からお産後までを一つのお部屋で過ごして頂けます。
- ★お産の時には分娩台へ早変わりするベッドがあります。
- ★畳のスペースがあり、リラックスして過ごして頂けます。

- ★音響があり、好きな音楽をかけることができます。
- ★シャワー・トイレが備わっています。
- ★個室でプライバシーも保たれているので、ご家族でゆったりとした時間を過ごして頂けます。



＜料金＞通常の個室料金に3150円加算されます。
 希望がある方はスタッフまで御相談下さい。
 ※ただし御希望に沿えない場合があるので御了承下さい。

文：滋賀医科大学医学部附属病院
母女性診療科病棟

助産師
三好 裕貴



Introduction for Hospital

病院の名前は知っているが、どんな病院か全く知らない方が多いのではないのでしょうか。

このコーナーは、そんな地域のみなさまや医学生・看護学生のみなさまに、滋賀県内の医療機関を知ってもらうために設けました。

シリーズ第2回に引き続き、県内臨床研修指定病院から自己紹介していただきます。

彦根市立病院



所在地：〒522-8539 彦根市八坂町1882番地

TEL:0749-22-6050 FAX:0749-26-0754

<http://www.municipal-hp.hikone.shiga.jp>

病院の概要

開設者：彦根市長

院長：金子 隆 昭

開設：明治24年(1891年)4月26日

病床数：458床

診療科目：21科

内科、循環器科、呼吸器科、神経内科、心療内科、小児科、外科、整形外科、産婦人科、泌尿器科、脳神経外科、眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科、形成外科、麻酔科、放射線科、緩和ケア科、歯科口腔外科、病理診断科、リハビリテーション科

施設指定等：救急告示病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、エイズ診療拠点病院、臨床研修施設指定病院、日本医療機能評価機構認定病院



彦根市立病院・全景

本院は、明治24年に公立彦根病院として開設して以来120年間に亘り、湖東地域の中核病院として歴史を刻み続けています。平成14年には琵琶湖を目前に臨む現在の地に移転新築し、**「住みなれた地域で健康をささえ、安心とめくもりのある病院」**を基本理念として、良質で安全な医療の提供に努めています。



湖東地域唯一の急性期病院、また自治体病院として地域に貢献できる病院であり続けられるよう、限られた医療資源の中で職員がそれぞれの専門性を生かしつつ、互いに連携・補完しながらチーム医療を進めています。

また、「彦根市立病院ふれあいまつり」や「市民健康講座」の開催など、地域に開かれた病院を目指しています。

救急センター

湖東医療圏の救急医療体制の基幹病院として救急患者の診療と地域の救急医療体制の整備に力を注いでいます。当センターで診療を行う患者数は年間約25,000人（一日平均69人）、救急車受け入れ台数は年間4,200台（一日平均11.5台）です。（ともに平成24年度）。いわゆる「たらいまわし」を防ぐため救急車は原則すべて受け入れており平成24年度では救急車受け入れ率99.1%を達成しています。「防ぎえた死」をなくすため日々全力を尽くしています。



DMAT活動

災害拠点病院として災害医療体制の向上に努めています。本院では、現在DMAT隊を3チーム結成しており、平成23年の東日本大震災においても医療救護活動を行いました。また、実際の災害時には多数の傷病者を収容し治療することが想定されるため、定期的に院内で大規模災害訓練を行っています。



DMAT隊



院内大規模災害訓練

◆医学生・看護学生の皆さんへ

彦根市立病院 院長 金子 隆 昭

彦根市立病院は約15万人の湖東地域住民の健康を支える中核病院です。
 本院は急性期病院ですが、訪問看護ステーションもあり、広く地域医療に関わっています。病院の特徴として、診療科間の垣根が低く、他科の医師にも心安く相談できる環境が整っています。医学生、看護学生の皆さん、風光明媚で住みやすい彦根に来て医師、看護師としての第一歩を踏み出してみませんか。きっと様々な症例を経験できるはずです。



彦根市立病院 副院長 矢野 秀 樹

本院は、入院、外来ともに症例数が豊富ですので、common diseaseからrare caseまで幅広くかつ多数経験できます。熱心な指導医のもと実践的な知識、技能ともに必要な臨床的態度を習得する事が可能です。日々の研修で疑問に思うことがあればすぐに質問ができ、他科の医師とも相談しやすくなっています。医師とコ・メディカルの連携がスムーズなので、「実践的なチーム医療」を学ぶには最適です。実際、5年前の病院機能評価で、このチーム医療について最高の評価を受けました。各科別のカンファレンスに加え、コ・メディカルも参加する院内の勉強会など数多く実施しているので、学ぶ機会が豊富にあります。特に、循環器科は県内でも屈指の症例数を誇っており、1年365日常に院内待機医がおり、心臓血管疾患は言うに及ばず心肺停止の患者さんの蘇生を学ぶには最適と自負しています。もちろん救急には力を入れており、救急車の受け入れはほぼ100%を誇っています。また、がん診療連携拠点病院として緩和ケア科を10年以上前から充実させており、悪性疾患の診療を学ぶにも最良の病院かと思います。2年間の初期研修の後のサポートも惜しみません。医師としての第一歩を、“ひこにゃん”の居住地で刻みませんか？



◆彦根市立病院 看護部理念

豊かな人間性を育み、磨かれた知識と技術で患者さんに寄り添った看護を提供します

彦根市立病院 副院長兼看護部長 古川 純 子

私たち看護部では、患者さんやその家族を大切に思いやる心「HEART」、専門的な知識と技術から導かれた気づき「HEAD」、経験により熟練された確かな看護技術「HAND」の『3つのH』を大切に新人看護師を育て、中堅者の主体的な教育活動を支援しています。学んだ知識と技術を実践に活かしながら、6領域9名の認定看護師とともに良質な医療の提供に努めています。昨年から、認定看護師による在宅訪問も始まり、看護の専門性は地域に拡大しています。

本院では2交替と3交替の勤務が選択できるなど多様な勤務形態を取り入れ、院内には24時間体制の保育所があり、時間短縮勤務制度による育児支援も行っています。新採用者には、本院指定のワンルームマンションに月1万円で入居していただくことができます。看護職員は、5色の中から1色好きなカラーユニフォームを選び、働き続けられる職場環境のもと、元気に生き生きと看護を提供しています。

新人看護師の皆さんは、認定看護師を始め多職種の講師から臨床で活かせる実践的な研修を受けながら、プリセプターと教育担当者のサポートで1年間の成長を実感していただけたと思います。私たちと一緒に、地域の方から期待される医療を目指しましょう。





大津赤十字病院

病院の概要

開設者：日本赤十字社 滋賀県支部長

院長：廣瀬 邦彦

病床数：824床

診療科目：内科、精神科、神経内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器科、心血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、気管食道科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科

指定施設：滋賀県がん診療広域中核拠点病院、滋賀県肝疾患診療連携拠点病院、総合周産期母子医療センター、滋賀県基幹災害医療センター、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、厚生労働省臨床研修指定病院、滋賀県救急告示病院、病院群救急輪番制参加病院、難病医療拠点病院、大津地域小児救急医療支援事業拠点病院、滋賀医科大学学外臨床教育・実習協力病院、人間ドック、日本医療機能評価機構認定病院



「南に長等山、西に比叡山を仰ぎ、北には琵琶湖を望む自然豊かな環境」

春には桜が咲き誇り、新緑の息吹を感じる大津市、長等。

うつくしい琵琶湖を望むこの場所に開院して1世紀が経ちました。

時代の移り変わりとともに、医療を取り巻く環境も激しい変化が訪れました。

技術・設備が発達し高度な医療が可能となりましたが、それにより個々の医療機関だけでは地域医療を実現することが困難になってきました。

理念

私たちは「人道・博愛」の赤十字精神にのっとり、患者さまの人権と意志を尊重して、最善の医療を提供し、地域の人々の健康増進に務めます。

基本方針

1. 患者さまと共にあゆむ医療を心がけ、プライバシーと権利を大切にします。
2. 医療の質の向上に努め、安全で高度な医療を提供します。
3. 救急医療に積極的に取り組み、災害救護に貢献します。
4. 地域の中核病院として他の医療機関との連携を推進します。
5. 研修・研鑽を積み、次代を担う医療従事者の育成に努めます。

滋賀県がん診療広域中核拠点病院、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院

「すべての人命を尊重し救う」という使命のもと、地域の医療機関と携えます。地域の医療従事者に対する研修や公開研修会を実施します。



総合周産期母子医療センター、救命救急センター

ハイリスク児のための新生児集中治療室（NICU）を完備し、昼夜を問わず新生児の治療とケアを行います。また、妊娠中の母体の異常に対応し治療する、母体・胎児集中治療室（MFIU）を設置し、出産前後の母子をサポートします。





滋賀県基幹災害医療センター

薬品や食料品などを備えた災害用備蓄倉庫や飲料水の供給確保、またライフラインが寸断した場合も自家発電装置が作動し、透析室・病室・手術室なども支障なく機能します。



各診療科の強化と、より充実した体制を構築するために、平成25年度は手術室の2室増室や放射線治療装置（トモセラピー）を増設します。

院長メッセージ

大津赤十字病院 院長 廣瀬 邦彦

大津赤十字病院は滋賀県大津市（人口34万人）の中心部に位置する中核病院です。当院の歴史は古く1904年（明治37年）に日本赤十字社滋賀県支部病院として誕生し、2004年（平成16年）に100周年を迎えました。創設以来、当院は地域の人々の健康を守る赤十字病院として、職員一同「人道・博愛」のこころをひとつにし、患者さまの人権と意志を尊重して、最善の医療を提供することに、日々務めることを「理念」としています。



外来患者数は1日平均1,700人、病床数824床で急性期を中心に地域が必要とするさまざまな方々のニーズに応えています。特に救急に関しては平成19年3月に新救命救急センターを開設し、第1次から第3次救急に対応し、年間の救急受診者は32,723人（1日平均88人）救急車台数6,586台（1日平均19台）であり、症例数は多種多様です。当院のプログラムは新臨床研修開始当初より救急部と麻酔科を別々に3ヶ月間ローテーションでき、それぞれ十分に研修が行えるようになっていきます。また、症例数はもちろん、指導体制も充実しており医師としての第一歩を踏み出すみなさんをこころよりお待ちしております。



平成25年度採用臨床研修医

看護部長メッセージ

大津赤十字病院 看護部長 廣原 恵子

当院看護部の魅力は、職場に笑顔と活気があふれていること。そのために、お互いを大切にし、楽しく働けることができる環境づくりに力を入れています。また、看護部が採用している固定ナーシングの基本に基づき、組織的な看護サービスの提供や看護実践から学びを深めるための振り返りを大切にしており、その一環としてナラティブ発表会や事例検討会などを開催しています。目標や課題達成に向けて各部署・看護部が一丸となる、それが当院の強みです。



看護師は患者様の健康問題を通して人生の大切なひとコマに関わり、よろこびやつらいことを分かち合い、笑顔を生み出す尊い職業です。看護部は一人ひとりの個性や強みを大切に、共に成長できる職場ですので、是非、一緒にがんばりましょう。

大津赤十字病院

所在地：〒520-8511
滋賀県大津市長等1丁目1-35
TEL：077-522-4131
FAX：077-525-8018
URL：<http://www.otsu.jrc.or.jp>



医学生・看護学生のみなさんへ

滋賀県内の病院から寄せられた実習情報・病院見学・インターンシップなどの開催情報です。ぜひご活用ください。

ホームページ<http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/gakusei/index.htm>でも最新情報をご確認いただけます。

◆ 医学生のための「病院研修・実習・見学」

番号	病院名・機関名				
	対象者 学年等	実施内容	日程 開催期間	申込時期	連絡先
1	長浜市立湖北病院 http://www.ikbk.jp/				
	全学年	病院見学 (各診療科見学、院内案内等)	随時 平成25年4月～ 平成25年11月	随時	管理課 0749-82-6143 (管理課直通)
2	近江八幡市立総合医療センター http://www.kenkou1.com/				
	第4学年～ 第6学年	希望により応相談	応相談 随時	随時	総務課 川端 0748-33-3151
3	滋賀県立精神医療センター http://www.med.shiga-pref.jp/pmc/				
	第6学年	1回につき学生1人。精神科医の診療に3日間ずっとついてもらいます。その間に協議も実施します。	3日間連続を年3回程度(計3人) 随時、相談	随時	柴崎(診療局長) 077-567-5001 shibasaki-morikazu@pref.shiga.lg.jp
4	大津市民病院 http://www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/				
	第4、5学年	「サマースチューデントコース」と題し、研修医のエスコートのもとに病院研修を体験してもらいます。	開催期間中の各週1名、計4名定員。研修日数は1～5日とし、複数の週にまたがらないこと。 平成25年8月5日～8月30日	HP参照	病院総務課 高橋純子 077-526-8516(直通)
5	甲賀市立信楽中央病院 http://www.city.koka.lg.jp/sch/				
	全学年	診療見学・出張診療・訪問診療	6月～11月 随時	随時	院長 中島恭二 0748-82-0249
6	弓削メディカルクリニック http://yugemed.com/				
	全学年	外来・在宅医療・通所リハビリテーション他	平日 随時	随時	院長 雨森正記 (FAX)0748-57-1130
7	びわこ学園医療福祉センター草津 http://www.biwakogakuen.or.jp/				
	全学年	障害児者医療の実習・見学 (病棟・外来・地域支援など)	1日～1週間程度 随時	随時	施設長 口分田政夫 077-566-0701
8	長浜赤十字病院 http://www.nagahama.jrc.or.jp/				
	全学年	病院見学(特にコースは定めていない。希望の見学場所があれば、できる限り対応。)	1日～1週間程度 随時	随時	総務課 0749-63-2111 resident@nagahama.jrc.or.jp
9	市立長浜病院 http://www.biwa.ne.jp/~nch/index.html				
	全学年	病院見学(各診療科見学、救急外来見学、院内案内等)	応相談 (平日～1週間程度)	随時受付・随時実施	総務課 0479-88-2324

◆ 看護学生のための「病院研修・実習・見学」

番号	病院名・機関名				
	対象者 学年等	実施内容	日 程 開催期間	申込時期	連絡先
1	長浜市立湖北病院 http://www.ikbk.jp/				
	全学年	病院見学 (看護局紹介、施設見学等)	随時 通年	随時	管理課 0749-82-6143 (管理課直通)
2	近江八幡市立総合医療センター http://www.kenkou1.com/				
	2014年4月 に助産師・看護 師として 就職希望者	希望部署で看護師・助産師とベ アを組み体験してもらいます。	希望により応相談 インターンシップは 8月中旬～下旬 応相談	随時	総務課 川端 0748-33-3151
3	滋賀県立精神医療センター http://www.med.shiga-pref.jp/pmc/				
	①全学年 ②2～4学年 ③3～4学年	①病院見学 ②就職説明会 ③インターンシップ	①随時②6月30日、 7月27日③3月1日～ 3月22日、7～9月末	①随時 ②前日まで ③随時	白崎 (看護部副部長) 077-567-5001
4	大津市民病院 http://www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/				
	全学年	病院看護局紹介、希望部署見学、 先輩看護師の話など	平成25年7月22日 ～8月9日 13:30～16:30	随時	看護局 教育担当 077-522-4607 (内線 6140)
5	訪問看護ステーションゆげ http://yugemed.com/				
	全学年	訪問看護・他在宅療養を支える 様々なサービスについて	平日の2～3日 随時	随時	雨森千恵美 (FAX) 0748-57-1147
6	びわこ学園医療福祉センター草津 http://www.biwakogakuen.or.jp/				
	全学年	障害児者医療の実習・見学 (病棟・外来・地域支援など)	1日～1週間程度 随時	随時	逸見聡子 077-566-0707
7	長浜赤十字病院 http://www.nagahama.jrc.or.jp/				
	全学年	インターンシップ (希望の部署 で個別に合わせたプログラム)	春休み・夏休みに 開催予定 1～3日程度	希望日の前月15日 まで	看護部 0749-63-2111 nurse@nagahama.jrc. or.jp
		病院見学	年2回程度		
8	市立長浜病院 http://www.biwa.ne.jp/~nch/index.html				
	全学年	インターンシップ 病棟見学実習、 介護技術見学、 先輩看護師との座談会	平成25年7月29日 ～8月23日 (土日を除く) *上記以外の日程 にも対応	4月8日～	看護科長室 0749-68-2300
		病院見学&説明会 (看護師募集について、先輩看護 師の話など)	平成25年6月22日・ 7月6日 9:00～ 平成25年7月29日・ 8月5日 13:00～	随時	

滋賀医科大学 医学科卒業生の卒後動向

2013年3月に卒業した医学生は進路をどのように決めたのか

滋賀医療人育成協力機構理事
滋賀医科大学里親学生支援室長

埤田 和史

1. はじめに

2004年までは、医学部を卒業した学生の8割近くが母校の各診療講座を進路として選び、その講座が医師としてのトレーニングや研究指導や就職先に責任を持つシステムでした。しかし、2004年以降は、卒業生が全国の大学病院や研修指導を行う指定病院を選択し（病院の側も、自分の施設で受け入れる新卒の医師を選べる）、医師としての初期研修（2年間）を行い、その後、自分が専門とする診療科を定め後期の研修を行うこととなりました。

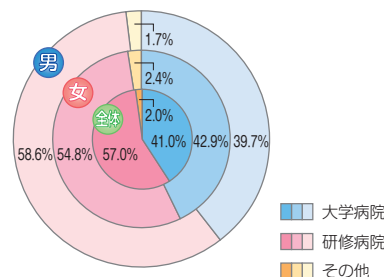
滋賀県内には、滋賀医科大学医学部附属病院をはじめ、12の卒後研修受け入れ施設があり、107人まで新卒医師の研修を受け入れることが可能です。医師不足問題を抱える地域にとって、大学を卒業した新人医師の動向はおおいに気になるところです。また、現在、大学で学ぶ医学生にとっても、先輩達の卒後の進路やその選択理由は気になります。

そこで、滋賀医療人育成協力機構は卒業生の協力を得て、2013年1月末に滋賀医科大学医学科卒業生の卒後動向を調査しました。109人の卒業生のうち、100人が国家試験直前の時期にもかかわらず調査に協力してくれました。

2. 結果の概要

2-1) 研修先は

大学病院を選んだ人が41人、研修病院は57人でした。男女によって研修先の選択構成は変わりませんでした。研修施設の所在地をみると、大学病院を含めて県内で初期研修をする人は33人、県外が67人でした。大学病院を研修先に選んだ41人のうち、県内は24人（58.5%）県外は17人（41.5%）、研修施設を選んだ59人のうち、県内は9人（15.3%）県外は50人（84.7%）でした。



(図1) 卒後の初期研修施設

2-2) 卒後の研修施設を選択する時に、重視した事柄

(表1) 卒後の研修施設を選択するにあたって、重要視した事項

	大学病院		それ以外	
	県内	県外	県内	県外
研修プログラム	24人	17人	9人	50人
研修施設の所在地	66.7%	70.6%	66.7%	86.0%
賃金・休日等条件	54.2%	64.7%	33.3%	66.0%
指導者	12.5%	23.5%	44.4%	30.0%
スタッフ等の雰囲気	50.0%	17.6%	22.2%	24.0%
スタッフ等の雰囲気	45.8%	35.3%	44.4%	64.0%

重視した事柄として回答の多かった項目を、選択した施設

設やその所在地別に示しました（表1）。表に示さなかった項目には「施設の名声」「研究環境」「家庭の事情」「保育所等女性の支援制度」などがあります。

研修先を決めるのに最も重視していたのは「研修プログラム」で、次いで「施設の所在地」と「スタッフの雰囲気」でした。大学病院にしろその他の研修施設にしろ、「滋賀県外」を選択した人が「施設の所在地」を重視していたのは納得できる結果です。

2-3) 希望する専門科は

将来、自分が専門としたい診療科について尋ねた結果です（表2）。内科希望が35人と最も多く、次いで外科が16人、産婦人科が10人、小児科が9人でした。

(表2) 希望する専門科

	大学病院		それ以外	
	県内	県外	県内	県外
内科	7	5	3	20
外科	4	3	2	7
小児科	2	1	0	6
精神科	1	0	1	2
産婦人科	5	0	1	4
整形外科	1	0	1	3
脳神経外科	1	0	0	1
眼科	0	1	0	0
耳鼻咽喉科	1	0	0	3
皮膚科	0	1	0	0
泌尿器科	0	1	1	1
放射線科	1	0	0	1
麻酔	1	0	1	0
家庭医学	0	0	1	4
その他	1	2	0	0
未定	2	2	0	2
未回答	0	1	0	2

2-4) 後期研修の動向は

調査時点で、後期研修を滋賀県内で行うことを考えている人は27人、58人は県外を考えており、10人は未定でした。県内の大学病院や施設で初期研修を受ける人の65%程度が後期研修も県内と希望していましたが、県外の大学病院で初期研修を受ける人で、後期研修を「県内」と考えている人は0%、県外の施設で初期研修を受ける人で、後期研修を「県内」と考えている人は12%でした。

3. まとめ

新卒の医師が医師としてのスタートをきる場所について、真剣に悩み、選択していることが調査を通じてわかりました。「施設の所在地」が主な選択理由である人を滋賀県内に止めることは難しいかもしれません。しかし、多くの医学生が「研修プログラム」や「スタッフ等の雰囲気」「指導者」を選択理由にあげていたことから、県内の研修病院の一層の努力に期待したいと思います。

滋賀医科大学里親学生支援室 プチ里親からのお便り

彦根市の地域医療を守る会

代表 川村 啓子



彦根市の地域医療を守る会は、医療を病院や医師まかせ、行政まかせではなく、患者も家族も病院や医師、行政も一緒になって地域医療を考えていくことをテーマに活動しています。毎月1回定例会として開催される勉強会には、様々な立場や職種の方が講師としてお越しいただいており和やかな雰囲気の中で、地域医療についてみんなで学び合っています。

私自身、手術で苦しんだ経験があり、北海道で地域医療に取り組むメディアやご講演でご活躍中の医師、村上智彦先生にご縁があって、地域医療を守り支えるためには、市民自らが地域医療を勉強する必要があることを学びました。

地域の将来を何とかしたいと一途な思いで2010年9月に会を立ち上げ、今ではたくさんのつながりができ、応援してくださる人が増えてきました。

第2回目のフォーラムを3月17日に開催しました。「あたたかな在宅看取りを考える」をテーマに、基調講演は「心安らかな最期を迎えるために～医療の現場から現状報告～」で、在宅医療に取り組んでおられる松木明先生のお話。パネルディスカッションでは彦根市立病院の金子隆昭院長、在宅看取りを撮る写真家國森康弘氏、市福祉保健部川嶋恒紹参事、市立病院訪問看護ステーションの柴田恵子所長、松木明先生の「人生最期の幸せをもとめて～輝く命のリレー～」でした。会場から切実な話や質問も出ました。

日本は世界一高齢化が進んだ国です。言い換えれば、これから世界一亡くなる方が多くなります。

人は確実に死を迎え最期をどう迎えるか。いろいろなチューブを入れられ、医療機器の助けを借り病院で最期を迎えるか、身内と生活しながら住み慣れた家で最期を迎えるか、その時2つの選択でなく、いろいろ支援があることを学びました。「素晴らしい哉在宅」という金子院長のお話は、在宅のモデルケースのような私の母の生活そして看取りの話で、松木先生も母のお話をされました。

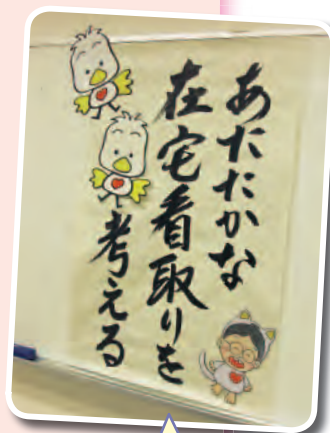
在宅は多職種連携で患者を最期まで看取り、命に寄り添う医療であり、そこには不思議な生きる力があります。母との貴重な時間は豊かな心の絆が深まった宝物でした。最期まで命を輝かし続けてくれた幸せな母。そこには医療の原点である「愛」が溢れていました。

これからも住み慣れたこの街で、安心して暮らし続けていけるため、地域医療のあり方を多くの方と学んでいきたいと願っています。

来年2月には第3回目のフォーラムを予定しております。



1コ500円
会のスローガンが
裏に書いてあり
貴重な資金源です



会のキャラクター
かいちゃんたいちゃんドクターと
ともちゃん



松木 明先生が
母の写真を見てお話



手作り募金バケツ

滋賀医科大学「里親学生支援事業」の 参加学生を送り出しました

平成19年度からスタートした滋賀医科大学「地域「里親」による医学生支援プログラム」に登録している看護学科学生が滋賀医科大学を巣立ち、4月からは各々の医療機関で活躍してくれることでしょう。「これからは、後輩の里兄、里姉として、後輩を応援したい。」との、力強い言葉をいただきました。

滋賀のいろんな所へ、宿泊研修へ行って、地域の様子を見たり、病院もたくさん見ることができ、とても勉強になりました。ありがとうございました。

滋賀の特性がよく分かる宿泊研修で、自分がこの土地で働くにあたっての心に留めておくべきことが分かった気がします。

里親登録させて頂いて良かったです。里親さんと出会えて本当に幸せです。ありがとうございました。

沖島の離島での地域医療を知れたことが一番心に残っています。先進医療だけでなく様々な現状を抱えている地域の問題を知れてよかったです。

私も里親さんと同じ助産師になれました!! みんなと宿泊研修で一緒に話したり、医療のことを学べたりとても充実していました。ありがとうございます。

甲賀市に研修に行き、とても勉強になったことがとても印象に残っています。ありがとうございました!

たくさんの地域を見て、滋賀の良さを知ることができました。ありがとうございました。4月からは医大でがんばります。



滋賀医科大学里親学生支援事業として、 「里親・プチ里親」と「登録学生」との交流・意見交換会を 1月31日(木)に開催しました

滋賀医科大学里親学生支援室長で、本機構の埴田理事から、平成19年度に滋賀医科大学「地域「里親」による医学生支援プログラム」が始まった経緯と活動内容、また平成23年度からはこの事業を本機構が引き継ぎ、「滋賀が好きな医療人をみんなで育てる」のローガンのもと、県全体で応援している現状説明の後、和やかな雰囲気の中、里親・プチ里親[※]の方々と登録学生との懇談が行われました。

学生からは「もっと事業に参加することで、将来どのような方向に進みたいかの参考にしたい。」「このような機会が持てることはとても有意義であり、これからも積極的に参加していきたい。」などの意見が聞かれました。

※県内で活躍されている医療従事者（医師・看護師・保健師・助産師）（里親）や地域の皆様（プチ里親）が登録学生の身近なサポーターとなっただき、交流を通じて医療人の心構えや地域医療の現状などを伝えていただいています。



『今時の学生』問題と教育方法改善に関する FD・SD研修会を2月14日(木)に開催しました

滋賀医科大学社会医学講座（衛生学）埴田准教授から、滋賀医科大学・滋賀県立大学人間看護学部・聖泉大学看護学部の教職員および滋賀医科大学学外実習機関指導者のご協力により実施したアンケート結果を基に、教職員が学生の態度をどのように感じているかについて、続いて、同大学精神医学講座山田教授から、学生の授業態度や生活上のマナーの低下問題について、最後に、同大学呼吸器内科長尾講師（学内）から、学生が「欠席して損をした」と思わせる授業への取り組み方について講演がありました。

終了後のディスカッションでは、授業に対する具体的な意見交換があり「舐めは家庭だけでなく、大学でも行う必要がある。」との意見がでました。80名を超える教職員にご参加いただき、有意義な研修となりました。

なお、この研修会は滋賀医科大学主催、本機構の後援で実施しました。



平成25年度通常総会を5月24日(金)に開催しました

正会員131名のうち102名の方に出席いただき（うち表決委任者80名）、次の3つの審議事項を承認いただきました。

1. 平成24年度事業報告および決算報告について
2. 平成25年度事業計画および予算案について
3. 新役員の追加選出について

（詳しくはホームページをご覧ください）



会員の現状

平成24年度の正会員・賛助会員またご寄附をいただきました方々は次のとおりです。

平成25年3月31日現在

会員種別等	入会・寄附者数	入金額	
個人正会員	85（新20）	入会金	100,000円
		年会費	158,000円
団体正会員	46（新8）	入会金	75,000円
		年会費	245,000円
賛助会員	81	賛助会費	461,100円
ご寄附	145	寄附金額	2,284,000円
ご協力	1団体		—
合計金額			3,323,100円

入会のご案内

周囲の方にも、
一声おかけ下さい。

皆様からの会費と寄附金を財源として、活動を進めてまいります。

ご入会いただくことにより活動が成り立ちますので、ご協力いただける方は、機構事務局（077-548-2802）へご一報ください。HP（<http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/>）からも入会可能です。

正会員：本機構の目的に賛同して入会いただく個人または団体
（総会での決議権を有します。）

正会員の種類	会 費		入会金（初年度のみ）
個 人	正会員費 2,000円	寄附金 3,000円以上	5,000円
団 体	正会員費 5,000円	寄附金 5,000円以上	10,000円

賛助会員：本機構の目的に賛同いただいた個人または団体
個人・団体とも、1口1,000円以上をお願いします。
できましたら、認定NPO法人としての基準を満たすため3,000円以上をお願いします。

ご寄附：機構の活動資金として皆様からのご篤志をお願いします。
できましたら、認定NPO法人としての基準を満たすため3,000円以上をお願いします。

滋賀医療人育成協力機構は、本機構への寄附者が税制上の優遇措置を受ける事のできる「認定NPO法人」になることをめざします。

編集後記



日頃は滋賀医療人育成協力機構の活動に、ご協力賜りまして有難うございます。多くの方々の応援により、めでの4号をお届けできる運びとなりました。

前回の機構誌から、各病院には通院されている患者さんにも見ていただけるようにお願いしたところ、ある方から「病院の待合室でめでの3号を見た。私も滋賀医療人育成協力機構の活動を応援したいので会員になりたい。」とのお電話をいただきました。

機構の活動内容が少しずつ色々な方々にご理解いただけ、関係者一同喜び勇んでおります。

今後もより一層活動に励みますので、多くの皆様のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



NPO法人滋賀医療人育成協力機構 広報誌「めでの」vol.4

発 行：平成25年6月30日
編 集：NPO法人 滋賀医療人育成協力機構
所 在 地：滋賀県大津市瀬田月輪町 滋賀医科大学内
T E L：077-548-2802 FAX：077-548-2803
Email：satooya@belle.shiga-med.ac.jp
U R L：<http://www.shiga-iryo-ikusei.jp/>